橈骨遠位端骨折手術に対する新しい掌側ロッキングプレート設置法

Guide pin Insertion First Technique（GIFT法）ー第2報ー

太田　剛　　藤原　鷹　　埼玉県済生会川口総合病院　整形外科

藤田　浩二　　東京医科歯科大学　統合イノベーション機構オープンイノベーションセンター 医療デザイン部門

二村　昭元　　東京医科歯科大学　大学院医歯学総合研究科 ジョイントリサーチ講座・ジョイントリサーチ部門 運動器機能形態学講座

第67回日本手外科学会学術集会　2024/4/26.7

第６７回日本手外科学会学術集会ＣＯＩ開示

筆頭発表者名：太田　剛

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません。

【はじめに】

- 掌側ロッキングプレート（VLP）は
  橈骨遠位端骨折治療のGolden Standerd
- 橈骨遠位端骨折はcommon bone injury
- 正確な整復固定が必要だが、容易では無い

VLP手術の要点

① 適切なプレート選択

② 正確な解剖学的な整復

③ 適切なプレート設置位置

【目的】

容易に適切な位置にプレートを設置できる方法を考案





【対象】

2023年5月～12月の間にVLP固定を行った25症例

性別	男性5例　女性20例
年齢	平均 66.8歳（25～88歳）
骨折型	A2　4例　B2　9例 C1　8例　C2　4例



【方法】

Trance FCR approach

使用したVLP

Xpert Wrist 2.4

Newclip Technics社



GIFT法

最初にGuide pinを1本刺入.

そのPinにPlateを差し込んで

Plate 設置位置を決定

Guide pin **I**nsertion **F**irst **T**echnic



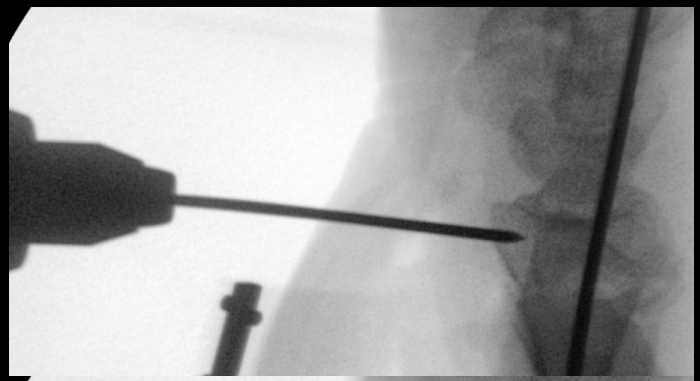
正面像で橈骨茎状突起にK-wireを刺入し仮固定

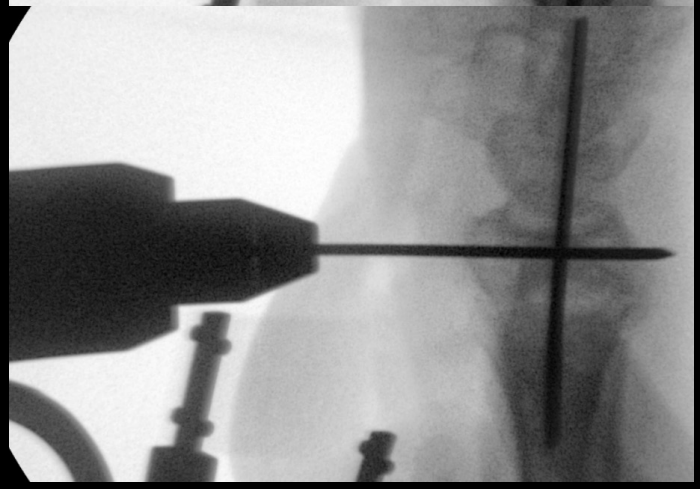




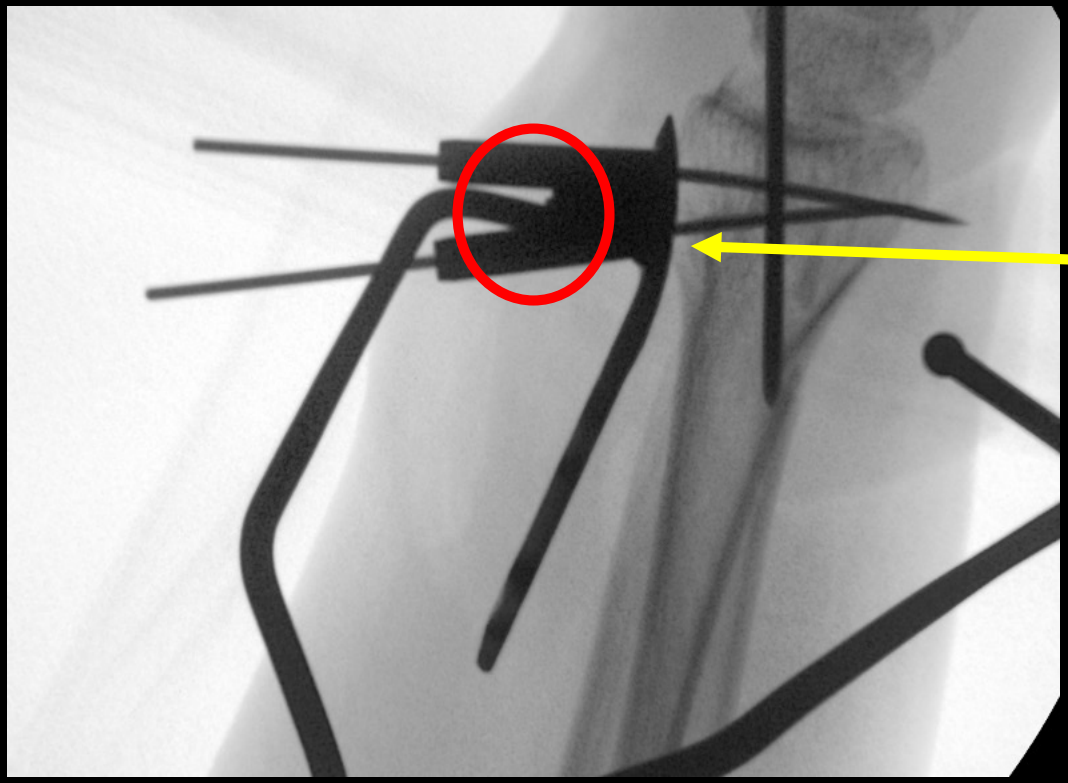
側面像で関節面に平行になる様に刺入







Guide pinにプレートを挿入



Guide pinの長さを計測
cannulated drillでdriringし
cannulated pinを挿入する



Condylar Stabilizing法で整復固定







【結果】

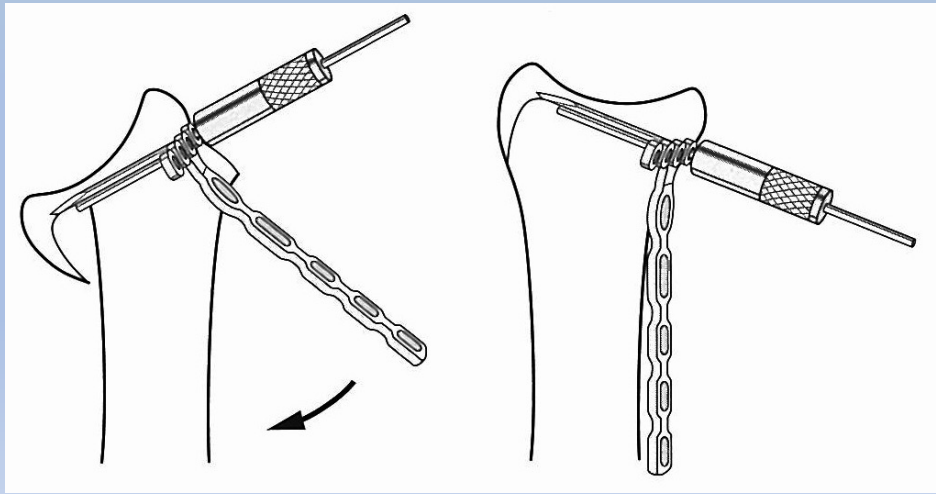
全例骨癒合　合併症無し

ROM　76/71
VT　14.5°
RI　22.7°
UV　0.15mm

良好な成績

【考察】

骨折整復と適切なピン・プレート設置を同時に行うことは困難



清重佳郎 : J MIOS, 52:10, 2009.より

強固なGuideによりGuide pinを刺入した位置に
正確にプレートを設置できる









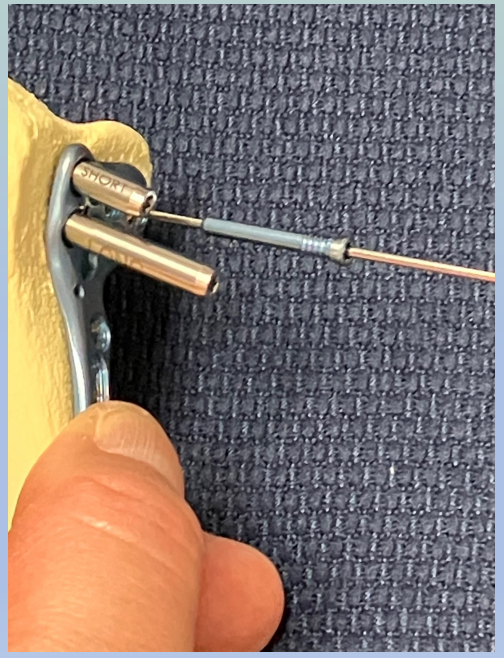
Guide pin越しにCannulated DriverでPinの長さを計測し
そのままCannulated Drillで掘削可能



Cannulated Driver



Cannulated Drill

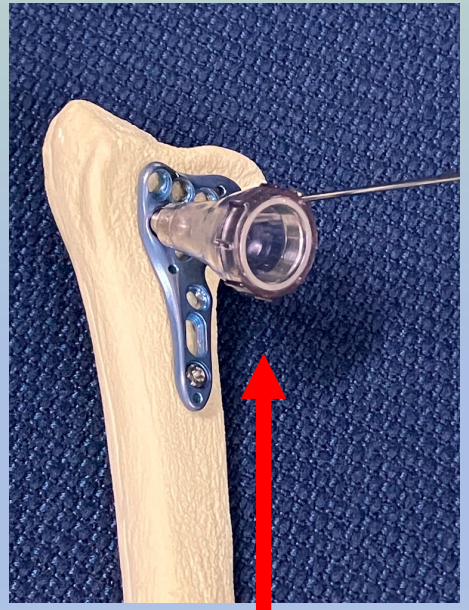


Cannulated pin

その他のHoleには円錐Guideを用いてpoly axialでも可能

圧着鉗子による圧迫も可能





円錐Guide



圧着鉗子

【Limitation】

- ○　症例数が少ない
- ○　経過観察期間が短い
- ○　使用可能なVLPが限られる

【まとめ】

- ○ GIFT法によりVLP設置位置を決定し手術を行った
- ○ 適切なピン・プレート設置位置が可能であった
- ○ GIFT法はVLP手術に有用と考える